

ビワ生育情報

第 2 報
千葉県農林水産部
令和2年11月号

着花房率は3品種ともに平年よりも多くなっています。なお、開花期は平年並みと考えられます。

令和2年10月の気象

令和2年10月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1、第5、第6半旬は平年並み、第3半旬は平年より高く、第2、第4半旬は平年より低く推移した。月平均気温は17.4℃で、平年より0.5℃、前年より2.3℃低かった。

降水量は第2半旬は平年の249%と多く、第4半旬は平年並み、他は平年よりも少なかった。月合計は244mmで平年の98%、前年の37%であった。

日照時間は第2～第4半旬は平年より少なく、他は平年よりも多かった。月合計は122時間で平年の89%、前年の103%であった。

表1 令和2年10月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.7	20.5	23.1	7	41	59	25	20	41
2	17.5	18.8	21.0	192	77	22	7	20	27
3	19.8	18.6	21.1	9	31	136	14	22	10
4	14.4	17.6	18.7	34	36	121	8	23	4
5	16.8	16.4	17.5	4	28	320	28	23	11
6	15.6	15.9	17.1	0	38	7	40	29	27
平均/計	17.4	17.9	19.7	244	250	662	122	137	119

12月の作業(花房の発育は次ページ)

気温が低下すると、ビワの枝葉や根の伸長はほとんど停止するが、開花は続き、幼果は少しずつ肥大する。12月は寒害防止の準備を行い、また、来春に向けて、苗木の植え付け準備にとりかかる。

台風による被害を受けた樹の管理

11月1日現在、日本列島に上陸した台風はない。今後、台風等の強風により倒伏した場合、樹を起こし上げて竹や単管パイプ等で支え、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。また、樹勢が低下した樹は花房数が少なくなるように摘除し、樹勢回復に努める。

防寒の準備

開花期は品種や花房ごとにばらつきが激しい。開花の早い花房は寒害に弱いため、早い花房を残す場合には、寒害に充分留意する。毎年1～2月に寒波が襲来しているため、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があり、あらかじめ資材を用意しておく。成木園では園内を加温する方法が効果があり、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。また、防霜ファンの設置によって、放射冷却現象を緩和させることも有効である。

植え付け(定植)と植え穴の準備

ビワの根の伸長は3月上旬から始まるので、苗の植え付けの適期は2月中下旬頃になる。植え穴の準備は年内に済ませておく。改植の場合には、白紋羽病の発病跡地は極力避ける。やむを得ず、発病跡地へ植え付ける場合は、フロンサイドSCを使用 방법에従い土壤かん注する。また、前作の根が残ると白紋羽病の発生源になるので、根を取り除くことも重要である。

新植の場合、苗の植え付け距離は3～3.5mとし、10a当たり80～110本を植え付ける。樹冠の広がりに合わせて間伐を行い、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

樹及び花房の発育

着花房率を表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が96.1%、「大房」が97.1%、「田中」が86.7%でそれぞれ前年及び平年よりも高かった。花房の大きさは全般的に平年並みで、1つの花房に着生する花数も平年並みである。

本年の7月は日照時間が少なく多雨であったが、8月は平年の140%、9月は平年並みの日照があったため、樹の生育は良好である。蕾の出現は「田中」は平年よりも早く、「楠」は平年並み、「大房」は平年よりも遅かった。また、花房の発育は品種や花房ごとにばらつきが大きく、11月1日時点では、3品種とも開花が始まっている。今後の気象にも影響を受けるが、現時点では開花の進みは平年並みと思われる。

アブラムシの発生は平年より少なく、カミキリムシ類の被害穴は少ない。なお、来年のカメムシ発生量は中発生と見込まれている。詳しくは、農林総合研究センター病害虫防除課の発生予察情報を参考にする。

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>)

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

品種	本年 (%)	平年 (%)	前年 (%)
楠	96.1	83.5	88.7
大房	97.1	79.4	93.7
田中	86.7	76.6	81.4

平年：1990年～2019年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>